

聴覚障害高齢者との 「ゲームや音楽発表を通じたふれあい交流会」

教育課程上の位置付 総合的な学習の時間

実施概要

始めの活動は、高等部社会貢献グループの生徒と利用者による風船バレーを、2階の集会室で行いました。社会貢献グループの生徒と利用者が自己紹介の後、混合チーム4組で風船バレーを1回ずつ行いました。次に、中学部の生徒の案内で3階の体育館に行き、中学部1、2年生の和太鼓演奏を見学後、施設の希望者9人が太鼓演奏に参加しました。最後に中学部3年生が手話歌の合唱を披露し、活動を終了しました。

活動参加者 当校 生徒…75人 担当教員…25人
内訳 交流先 利用者…9人 担当職員…5人

交通手段 当校とデフケア・クローバーとの距離はおよそ7km
バスと徒歩で来校 約45分



風船バレーのラリーに笑顔があふれます

活動報告 実施日：12月6日(水)

始めの活動は、2階の集会室で高等部の生徒と利用者による風船バレーを行いました。自己紹介をすることで同じ苗字の生徒と利用者同士、名前を呼び合い和気あいあいとした雰囲気になりました。風船バレーでは、利用者3人と生徒3人で4チームを作り、対戦しました。利用者がうまくトスをつないで、思いのほかラリーが続きました。その後、高等部の生徒から手作りのマグネットが利用者にプレゼントされました。

次に3階の体育館に移動し、中学部1年生と2年生の迫力ある和太鼓演奏を楽しみました。利用者は、太鼓の響きを体で感じたと話していました。その後、施設の希望者9人が舞台上上がり、バチを持って、生徒と一緒にリズムに合わせて和太鼓をたたきました。初めての太鼓体験で最初は戸惑っていた利用者もいましたが、生徒のリードで楽しく体験していました。次は中学部3年生が手話歌の合唱を披露しました。「父母唄」という歌詞と手話の素晴らしさに利用者から感動したという感想が聞かれました。中学部の生徒からは、手作りの手提げ袋などがプレゼントされ、和やかな交流活動になりました。

当日のスケジュール

- 13:15 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(応接室)
- 13:30 利用者来校
- 13:50 高等部社会貢献グループが集会室へ案内
- 14:00 開会 始めの言葉(高等部社会貢献グループ生徒)
- 14:10 風船バレー交流(高等部社会貢献グループ生徒10人)
- 14:30 終わりの言葉(高等部生徒)、利用者からの感想
利用者が体育館へ移動
- 14:35 中学部生徒出席者全員(65人)による、音楽・手話歌等発表・交流
・和太鼓演奏 その後、太鼓交流(中学1・2年生47人)
・手話歌合唱(中学3年生18人)
- 15:20 生徒から利用者にプレゼント、利用者からの感想、終わりの
言葉(中学部生徒)
- 15:45 利用者は控室に移動した後、学校出発

■活動のために準備したもの

- 〈教員〉手話歌の動画など
- 〈生徒〉プログラム(模造紙)、プレゼント(マグネット、手提げ袋)

■工夫したところ

高等部では、生徒が司会を行うなど役割分担をすることで、積極的に参加できるようにしました。高齢な利用者の体力的な負担を軽減するために、いすに座って風船バレーを行うことにしました。中学部では、同じ聴覚障害のある利用者に音の響きを楽しんでいただけるように、和太鼓発表をしたり、一緒に太鼓をたたいたりすることができるようにしました。また、手話歌の歌詞を字幕で表示し、情報保障を行いました。

■実施にあたって注意したところ

12月で寒い時期の実施だったため、会場を事前に温めておきました。体育館の舞台から降りる際には、手すりのある階段を使っておきました。移動には、エレベーターを使用しました。

■良かったと思うところ

同じ聴覚障害者同士で交流することができたため、豊かなコミュニケーションをとることができました。初めて本校にいらした方も多く、学校の存在を知っていただくことができてよかったと思います。

■今後に向けての学校からの抱負

同じ聴覚障害のある高齢者との交流は、ろう学校の生徒が自己のライフサイクルを考えるためのとても良い機会です。高等部では、今後も総合的な学習の時間に社会貢献グループで調べ学習を行い、高齢者との交流を続けていきたいと思えます。中学部でも、戦争体験など、聴覚障害者ならではの体験をお話していただく機会を設け、交流を深めていけたらと考えています。

当校は、全校212人の0歳から20歳までの幼児・児童・生徒たちが学んでいる全国でも規模の大きい聴覚障害特別支援学校です。自立と社会参加を目指して、幼稚部から高等部専攻科までの一貫したキャリア教育を推進しています。以前、足立区デフケア・クローバーの方を招いて、昔の聴覚障害者の御苦労などの情報提供をいただいておりますが、社会貢献活動は行ったことがありません。

活動の感想

生徒・教員の感想

生徒

- 聴覚障害のある高齢者の方々と初めて会って、手話も少し違うところがあることに気付きました。風船バレーでは、どの方も元気に楽しそうに活動していたので、安心しました。ラリーが続いて、楽しかったです。
- 高齢者の方々と一緒に手話歌を歌うことができて楽しかったです。「感動した」と言われてとてもうれしかったです。太鼓もうまくできて良かったです。また交流会をしたいです。

教員

同じ聴覚障害のある高齢者の方々とふれあう経験は初めてという生徒が多かったです。手話で自己紹介を行うことで、お互いに通じ合うことができ、生徒にも多くの笑顔が見られました。楽しい時間を私たちの大先輩と一緒に過ごすことができ、貴重な経験ができました。一緒に風船バレーを行ったり、和太鼓をたたいたりした経験は、とても思い出深いものとなりました。今回の交流会をきっかけに、今後も交流の機会を設けたいと思います。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- 今日、高等部や中学部の皆さんとの交流が盛り上がり、とても楽しかったです。太鼓の打ち合い、とてもすごいな、と思いました。皆さんが上手で感動しました。
- 今日はとてもよかったです。とても感動しました。こちらに来る前に、生徒の皆さんが太鼓の練習や、私たちのために、いろいろと準備してくださり、本当にありがとうございました。
- 一番良かったのは、太鼓の音を聞いて、体に響いてきたことです。とても良かったです。手作りのプレゼントもいただき、本当に忘れられないです。
- いろいろな楽しいことがあって、太鼓の音も分かりました。手話の歌も素晴らしくて、びっくりしました。

施設長

当日はどのような内容かと思いながら学校に行きました。まず始めは高等部の皆さんとの風船バレーの交流で、生徒の皆さんが次第やゲーム内容の説明など事前に準備してみんながわかるように説明くださいました。対戦も生徒と利用者混合での形で楽しく交流することができました。続いて中学部では太鼓演奏と手話のコーラス、とても素晴らしく、これも一生懸命練習されたことがわかりました。本当にありがとうございました。太鼓は体と心に響きました。利用者のことを考えて作ってくれたプレゼント、とてもありがたかったです。

■実施までの経過 ※(コ)：コーディネーター

- 7月31日 (コ)、学校を訪問。担当教員と打合せ
- 8月8日 (コ)、足立区デフケア・クローバーを訪問。施設長に当事業を説明し、協力を依頼
施設長快諾
- 9月26日 (コ)、施設担当者に保険について説明
後日、電話やメールにて、担当教員、施設
担当者と詳細を連絡調整

交流先

NPO法人「デフ・サポート足立」
地域活動支援センター
「デフケア・クローバー」

住 所：東京都足立区竹ノ塚6-9-4
飯田ビル4階

■施設概要

- 地域活動支援センター
(実施日ごとに10～12名のべ36名まで)



緊張しながら、風船バレーの説明をしました



利用者さんも生徒と一緒に太鼓をたたきました

